

平成 29 年度

平成 29 年度 弘前市相馬地区管内道路資産点検業務

特 記 仕 様 書

弘前市 建設部 建設政策課

第1章 総則

第1条 適用

本特記仕様書は、弘前市相馬地区管内道路資産点検業務に適用する。

第2条 通則

本業務の施行にあたっては、青森県県土整備部制定「測量作業共通仕様書」(平成 29 年 10 月)によるほか、本特記仕様書、国土交通省道路局制定「小規模附属物点検要領」(平成 29 年 3 月)に基づき実施するものとする。

第3条 目的

本点検は、弘前市相馬管内の市道(全 160 路線)の小規模附属物について、落下や倒壊による第三者被害を防止する観点から、施設の健全性の点検を行うとともに、あわせてナットの締め直し等の応急措置を行うことを点検の目的とするものである。本点検を担当する主任技術者は、意図を的確に把握し、点検に手戻りが生じることのないように細心の注意を払い、履行しなければならない。

第4条 照査

本業務については、照査技術者を配置する必要はない。

第5条 点検作業計画書

受注者は点検の実施に先立ち、あらかじめ点検作業計画書を作成し、監督職員に提出しなければならない。

第6条 打合せ

打合せは、原則として業務着手時、中間、成果品納入時の 3 回とするが、必要に応じて随時行う。また、全体計画打合せ及び取りまとめ打合せには、主任技術者は必ず立ち会うものとする。

第7条 資料等の貸与

貸与する図書及びその他の関係書類は、下記のとおりとする。

- ・平成 29 年度 弘前市相馬地区管内道路資産現況調査業務 報告書
- ・弘前市道路台帳

第8条 手直し

受注者は本点検が終了したとき、受注者の責に帰すべき理由による不良個所が発見された場合には、速やかに訂正、補足、その他の措置を行わなければならない。

第9条 関係官公庁の手続き等

点検履行のために必要な関係官公庁等に対する諸手続きは、受注者の責任において迅速に処理する。

第10条 諸法規の遵守について

受注者は点検履行にあたり、諸法規を遵守し点検の円滑な推進を図るとともに、諸法規の運営適用は受注者の負担と責任において行わなければならない。

第11条 交通安全管理

本点検の履行にあたっては交通状況を十分に把握し、点検員の人身事故はもとより第三者に危害を及ぼさないよう万全の措置を講じなければならない。

本点検に起因して第三者に損害を与えた場合は、受注者の責任において措置するものとする。

第12条 履行期限

本点検の履行期限は平成 30 年 1 月 31 日迄とする。

第13条 「参考資料」

特記仕様書の外に提示する「参考資料」は、指名参加業者の迅速な見積もりに対しての一資料であり、委託契約上は拘束力を生じさせるものではないことに留意すること。

第2章 点検範囲及び点検の実施体制

第1条 点検対象

点検対象は、道路管理者が設置した小規模附属物を対象として点検を実施する。

小規模附属物とは、道路標識（F型、逆L型、T型、単柱式、複柱式）、および道路照明（逆L型、Y型、直線型）のことをいう。

第2条 点検の実施体制

点検作業は、点検員1名、点検補助員1～2名にて点検することを基本とする。高所作業車運転員及び交通整理員は、点検の種類、附属物の立地条件や交通条件に応じて考慮するものとする。

点検員は、以下の能力と実務経験を有する者とする。

- (1) 附属物（標識、照明施設等）の設計、施工、維持管理に関する基礎知識を有すること。
- (2) 附属物（標識、照明施設等）の点検技術と実務経験を有すること。

第3条 点検方法

点検方法は、近接目視を基本とし、適宜、触診、打音等を行う。また、板厚調査等の詳細調査を実施する必要がある場合は、監督職員と協議すること。

第4条 点検項目

- (1) 「支柱等の本体」、「各部位の接続部」、「支柱基部」、「開口部」等のき裂、腐食、ゆるみ、脱落、破断などについて点検することとする。
- (2) 点検時に変形が認められた附属物については、き裂等生じていないか構造全体の点検を行うこととする。
- (3) 点検にあわせ、次回点検時に簡易に遠方目視確認できるように、可能な限りボルト・ナット、座金及びプレート部に「合いマーク」を設置することとする。
- (4) 支柱基部が埋め戻されている場合は、下記により掘削し目視点検することとする。なお、支柱部の露出方法および埋め戻し作業については監督職員と協議のうえ定めることとする。
 - ① 路面境界部が土砂で覆われている場合
必ず路面境界部を露出させ状況の確認を行うこととする。

②路面境界部がアスファルトで覆われている場合

近接目視し腐食の発生が明らかである場合や支柱と路面の間に隙間がある場合には、路面をはつり路面境界部を露出させ状況の確認を行うこととする。

③路面境界部がインターロッキングで覆われている場合

路面境界部がアスファルトで覆われている場合と同様の確認を行うこととする。

④路面境界部がコンクリートで覆われている場合

コンクリートにひび割れ等の変状が生じている場合など、路面境界部の腐食の発生が懸念される場合には、コンクリートをはつり確認を行うこととする。
なお、支柱基部の掘削・埋め戻しが別途委託発注されている場合は、監督職員と協議して点検作業を行うこと。

第3章 応急措置

第1条 応急措置

点検で異常を把握した場合は、可能な限りの応急措置を行うこととする。なお、ナットのゆるみ等応急措置を施した場合は、措置内容を記録に残すこととする。

第4章 計画準備

第1条 資料収集

受注者は、貸与資料に定める資料を参考に点検個所を把握すること。

第2条 現地踏査

点検作業に先立ち現地踏査を実施し、点検施設の把握を行うこと。

第5章 点検結果のとりまとめ

第1条 点検の記録

点検結果は、「小規模附属物点検要領」に基づき、次の様式に記録することとする。

①点検表(点検結果票)

②状況写真(損傷状況)

状況写真(損傷状況)は、異常のあったものについて作成することとする。

第6章 報告書の作成

第1条 報告書作成

点検結果を所定の様式で出力し、成果を整理した報告書を作成する。

第7章 成果品の提出

第1条 成果品の提出

成果品は共通仕様書で定める他、次のものを提出すること。

1. 報告書

(1) 電子媒体 (CD-ROM) 1 部

(2) 紙媒体 (簡易なファイルにとじたもの、図面含む) 2 部

2. その他

(1) 現地点検状況写真集 2 部 (報告書電子媒体に含む)

<div> <div>参考資料</div> <div>委託内容</div> <div>弘前市</div> </div>								
費目	工種	種別	細別	単位	数量	単価	金額	摘要
測量業務								
	点検業務							
				式	1			
		資料収集		業務	1			
		計画準備	業務計画書・関係機関協議・点検記録票印刷	業務	1			
		現地踏査		業務	1			
		点検調査	大型道路標識	基	17			
		点検調査	小型道路標識	基	170			
		点検調査	ロードミラー	基	84			

参考資料 委 託 内 容 弘 前 市								
費 目	工 種	種 別	細 別	単位	数 量	単 価	金 額	摘 要
		点検調査	道路照明施設 テーパ-ポール型	基	27			
		点検調査	道路照明施設 街路灯	基	70			内、作業高H≥5mはN=15基
		点検調査	大型案内板	基	1			
		点検調査	小型案内板	基	11			
		報告書作成	点検記録作成・写真整理・報告書とりまとめ	業務	1			
		打合せ協議	3回 着手・中間1回・納品	業務	1			
直接経費				式	1			
	旅費交通費			式	1			

<div>参考資料</div> <div>委 託 内 容</div> <div>弘 前 市</div>								
費 目	工 種	種 別	細 別	単位	数 量	単 価	金 額	摘 要
		ライトバン1500cc	3時間/日	日	14			
	機械器具費							
				式	1			
		点検用具費		式	1			点検調査費用の3%
		高所作業車	バケット・ブーム型・作業床高12.0m	日	3			
	安全費							
				式	1			
		交通誘導員B		人	6			